

はじめに

太平洋問題調査会（IPR）研究部会は、アジア太平洋研究センター（1997年7月発足）の前身組織である社会科学研究所（1940年～1997年）内に部会として発足したのが始まりである。現在の研究組織は、IPRに関する調査・研究活動を進めて来た主要なメンバーを母体とし、新たに加わった若い研究者を加え、本年度（2015年度）に設置されたものである。その設立目的は、本書の出版をすることによって、IPRに関する最新の研究成果を世に問うことにあった。

社会科学研究所時代には、「日米関係部会（1992年～93年）」、「アジア太平洋部会（1994年～95年）」、「IPRとその時代研究部会（1996年～97年）」という3つの部会を設置し、その成果として、『黎明期アジア太平洋地域の国際関係：太平洋問題調査会（IPR）の研究』（1994年3月）、『戦間期のアジア太平洋地域：国際関係とその発展』（1996年7月）、*The Institute of Pacific Relations: Pioneer International Non-Governmental Organization in the Asia-Pacific Region*（1999年7月）の3冊を出版した。

また、社会科学研究所は1997年7月にアジア太平洋研究センターへと編成替えとなり、部会として、2年編成の「アジア太平洋の国際関係部会（1998年～99年）」を、それ以降は単年度の編成と変わって「太平洋問題調査会研究部会（2000年～05年）、〈2012年〉、（2015年）」を発足させ、現在に至っている。しかし、2006年から2010年にかけては、総合研究機構の中に、プロジェクト研究所として「太平洋問題調査会研究所」を設置し、5年間にわたり調査研究を進め、その成果として、『太平洋問題（1925～1961）とその時代』（春風社、2010年3月）を世に問うた。

このように、IPRに関する研究は、早稲田大学の社会科学研究所と、その後続組織であるアジア太平洋研究センターにおいて、研究部会を組織することにより、海外や学内外の研究者を終結して、四半世紀にわたり推進されてきた。

こうした長い歴史を有する、IPRに関する調査研究活動の過程において、今回は、若い研究者の参加もえて、本書の出版を計画した。本書が、アジア太平洋地域の国際関係や国際交流の分野において、新たな視点の提供や学術的貢献があることを期待している。

山岡 道男

2015年10月10日